



千代田・港・新宿の若者の実態示した 厚生労働省に要求しました

日本共産党都委員会と民青同盟都委員会は3月5日、厚生労働省に若者の雇用対策について緊急要望をおこない、小池晃参院議員などともに富田なおきも参加しました(写真右)。

富田なおきは、日比谷公園でとりくんだ若者アンケートや千代田・港・新宿で青年から聞いた実態を厚生労働省に伝えました。給料が最低賃金以下や残業代が出ないことが違法だと知らなかったり、権利がないと思わされている若者が多いこと、派遣労働者の多くが自分を無能な人間だと思わされて、自信を失っていること、などです。

そして、「労働者の権利を啓発する活動を、国が行政機関としてイニシアチブを発揮してほしい」「違法状態におかれている青年たちが『おかしいかも?』と疑問に思っている相談できるよう、あらゆる手段をつかってほしい」と訴え

また、「大工場で継続的に仕事があるのに、派遣を大量に使い続けている」「保育の現場でも短期の雇用がくり返されている」「ある企業が47の支店を一方的に閉鎖し、800人が路頭に迷っている」などの実態を実名も示して告発し、改善を迫りました。

厚生労働省の担当者は、現行法にもとづいて違法があれば解決する、と答えました。同時に、日雇い派遣の禁止や、派遣労働の野放しを規制し正社員化をはかるなど、派遣法そのものの改正が求められています。力をあわせて実現させましょう。

要求した主な項目

「偽装請負」「残業代未払い」など違法な実態を相談できる窓口設置や違法にかかわった事務所の公表をはじめ厳しい指導を派遣等で交通費すら支給されない事態の解決を医療、介護、保育などの劣悪な実態の調査・改善労働者の権利を知らせるパンフの発行・普及低収入の若者向け「家賃助成制度」の創設を職場のストレスによる精神疾患へのカウンセリング機能の抜本的強化若者の医療保険加入などについての実態調査を

若者の人生が壊されている 国は青年雇用の緊急対策を



港区・品川駅前(9日)

「共産党、いいね」 若者から熱い声援

3月9日と11日、谷川智行さん(比例東京ブロック・医師)といっしょに、千代田・港・新宿の繁華街で、若者の雇用問題などを訴えました。

秋葉原では、若者たちが拍手や手をふって声援。「共産党、いいね」「絶対支持します」などの声が相次ぎました。

歌舞伎町では、ずっと演説を聞いてくれた男性から、「ふだんは共産党を支持してないが、心の琴線にふれた。あなたを支持する」と激励をいただきました。

志位質問に大きな反響

派遣労働の規制強化へ法改正を

日本共産党の志位和夫委員長は2月8日の衆院予算委員会で、人間をモノのように使い捨てる派遣労働の深刻な実態を告発し、労働者派遣法を改正するよう、迫りました。福田首相は「日雇い派遣は好ましくない」と認めました。

この質問はインターネットで大きな話題となり、直後にキャノンには5千人を直接雇用しに切り替える方針を打ち出しました。毎日新聞が3月10日付け社説で「日雇い派遣 法改正で禁止へ踏み出せ」と掲げるなど、世論を大きく動かしています。

派遣労働の原則自由化(99年)に国会で反対したのは、日本共産党だけです。自民党も公明党も民主党も社民党も賛成しました。それが今、自民党以外は、法律を改正して派遣労働の規制を強化する方向へ変化しています。今こそカジを切り替える時です。



志位委員長質問の映像はこちらから
<http://www.jcp.or.jp/>(日本共産党ホームページ)
<http://jp.youtube.com/jcpmovie>(youtube日本共産党チャンネル)



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

2 2008.3.23

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail: tomita-naoki@nifmail.jp

千代田区が介護施設に独自の助成

正規職員化、住宅手当の支給など

対象は24時間・365日サービスを提供する区内の介護保険施設4ヶ所です。

4月から実施予定の助成内容は、介護施設の非正規職員の正規職員格上げ、パート職員の時給引き上げなどの労働環境改善のための費用補助です。施設が職員を確保し、定着しやすくする目的です。

また、介護職員の住宅手当は、千代田区内に住む職員には月5万円、それ以外の職員には月2万円を上限に補助します。都心の物価高の状況をふまえた対策です。

介護職員の資格取得や、技能向上のための費用なども助成。職員の精神面の負担軽減のためのカウンセリング費用の補助もします。

低賃金・低待遇で介護労働者の離職が増加し、介護現場の人材不足が問題となっているなか、自治体による施設への支援は、全国でもほとんど例がなく、注目されています。

日本共産党千代田区議団は、昨年11月に介護施設の聞き取り調査を実施。「給料が安く人が集まらない」、「福祉の現場は3K（きつい、汚い、危険）です」などの声を受け、区議会などで施設への支援を求めています。

施設の努力にこたえる内容

木村正明党千代田区議団長の話

今回の区の支援策は、介護職員の待遇改善に向けた施設側の努力に応える内容です。支援策が介護保険料引き上げにつながらないように、一般財源を充当させる点も評価できるものです。

介護職員の労働環境のいっそうの改善をはかるとともに、児童福祉施設、障害者福祉施設にまで支援策を広げるために、引き続き力を尽くす決意です。

新宿の青年たちと語り合いました！

青年の「しゃべり場」（2月28日）



日本AALA事務局の前島和枝さんをゲストに、ラテンアメリカの激動を生き生きと伝えていただき、語り合いました。

働く女性に勇気をもらいました！

千代田「未来をひらく女性のつどい」（3月5日）



「ナイチンゲールの心で患者さんの回復を支えたいが、今の現状では無理」との看護師さんの悲痛な訴えが耳に残りました。政治の責任で打開せねばと痛感。

明日の日本・港区を大いに語ろう！

芝浦・海岸地域のつどい（3月15日）



マンションが激増している地域。定住意識の高い住民が増えている一方で、マナーが悪くなるなど、地域要求も切実です。

富田なおきの生いたち



小学校の時、友人が描いてくれた似顔絵

父は転勤族、家族で転々

1976年1月に山形市で生まれた私は、4月には父の転勤で家族と札幌に転居。4歳で山形市にもどり、小学2年のとき南陽市に転居、ここで小学校卒業。中学でまた山形市にもどり、高校

を卒業するまで在住しました。

家族は、両親に妹の4人。

幼稚園ではいじめにあい、数ヶ月登園拒否。それ以来、集団生活になじめなくなり、その状態は小学校低学年まで続きました。

小学校3年のとき担任の先生に、「教室は間違るところ、どんどん自分の意見を言いなさい」といわれ、そのことが契機になり、自分から積極的に話しかけることができるようになりました。4年生のころには、友だちから「富田はうるさい」といわれるほどにかわっていました。

富田なおきブログを始めました

ごらんの上、お気軽にご意見ご要望をお寄せください。

<http://blog.goo.ne.jp/tomita-naoki>